

## 地域再生計画（地方創生污水处理施設整備推進交付金）評価調査事後評価調査

都道府県名	熊本県	事業実施主体	芦北町	地域再生計画名	個性輝き活力と魅力にふれた、安全・安心を実感できる町
計画期間	令和２年度～令和６年度	評価責任者	上下水道課長 才保 親哉		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度		年度	中間実績		基準年度	最終実績		指標総数	達成数		
	目標 1	汚水処理人口普及率	67.8%	H29	69.6%	R4	73.1%	70.2%	R6	73.5%	○			汚水処理施設整備と浄化槽整備の効果により目標を達成できた。
	目標 2	農業集落排水施設維持管理費	32,250	H29	32,250	R4	34,574	29,792	R6	26,948	○	2	2	汚水処理施設更新工事が完了したことにより、維持管理費が削減でき目標を達成できた。
②事業の実施状況に関する客観的な指標（KPI）の実現状況	重要業績評価指標（KPI）		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況			
	指標 1	汚水処理人口普及率	67.8	H29	69.6%	R4	73.1%	70.2%	R6	73.5%	－			
	指標 2	農業集落排水施設維持管理費	32250	H29	32,250	R4	34,574	29,792	R6	26,948	－			
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価								
			計画	中間年度（R）	最終実績									
地域再生計画に記載がある特別の措置を適用して行う事業	汚水処理施設		一式	一式	一式	令和5年度に更新工事が完了したことにより、指標2である維持管理費のR6実績値（26,948千円）が最終目標値（29,792千円）を下回り、事業の効果が見られ、目標を達成できた。								
	浄化槽		250基	115基	158基	令和2年豪雨災害による転出及び生産年齢人口（15～64歳）の転出が増加したことに伴い、住宅の新築件数が減少したため、最終実績は計画整備量を下回ることとなったが、引き続き浄化槽整備については推進事業を進めていきたい。								
その他の事業														
計画外で独自に実施した事業	空き家活用推進事業		空き家の活用及び移住定住の促進を目的として実施			町が運営する移住定住特設サイト内の空き家バンクに登録されている空き家の改修費用や、残存家財及び樹木等の処分費の一部を助成した。								
	お試し住宅事業		移住を希望している者に対し、一定期間の生活体験や地域住民との交流ができる施設を整備する			遊休公共施設を改修し、本町への移住希望者に貸し出すための移住体験住宅事業を令和6年度から実施した。								
④評価方法	本計画の基となる芦北町総合戦略の評価・検証を行う総合戦略推進委員会において、最終目標数値の実現状況に関する評価・検討を行った。													
⑤事後評価の公表方法	芦北町ホームページに掲載													
⑥計画全体の総合評価	【農業集落排水施設】 芦北町農業集落排水施設最適整備構想に基づき、老朽化した施設の更新を行うことで維持管理コストの低減を図るとともに、未接続世帯に対しては、引き続き町の広報等による積極的PRを行い、農業集落排水が果たす環境への役割を周知することで接続を促進し、人口減少時代に対応した本経営戦略により、安定経営に努めた。指標2農業集落排水施設維持管理費については、更新工事の完了に伴い維持管理費が削減され最終目標数値に達することができ、本事業による効果を十分に発揮できた。 【浄化槽】 汚水処理人口の普及促進を図り、清潔かつ快適で生活しやすい良好な住環境を維持し、河川への生活雑排水の流入を抑え水質の保全を図り、魅力ある自然環境を活かした個性ある安全・安心のまちづくりを目指すことを目的としている。農業集落排水事業と生活排水処理事業と併せて浄化槽設置整備事業を実施したことにより、指標1汚水処理人口普及率についても、目標数値を達成することができた。													
⑦今後の方針等	本事業を活用したことにより、指標1、2とも目標値を達成することができ、住民へ快適で安全な住環境を提供することができた。今後は、指標1及び指標2の数値をさらに向上させることで、魅力ある安全・安心を実感できる町を創造し、移住者等の転入人口増加に繋げる。													